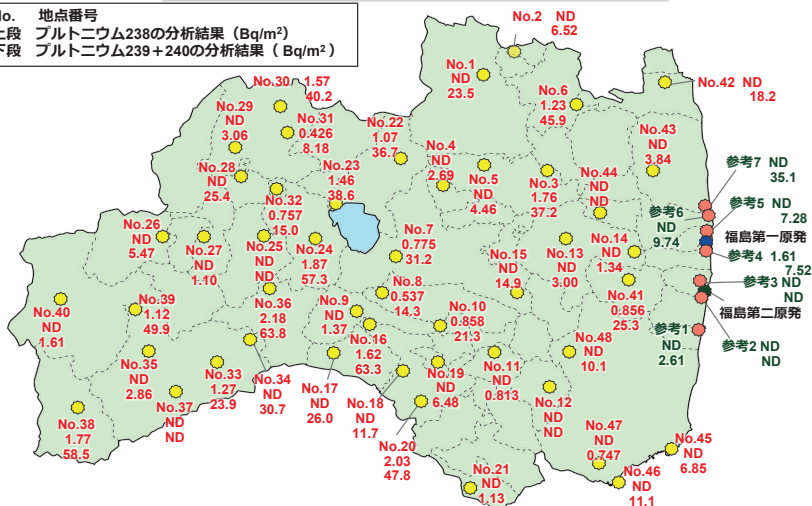


プルトニウム238、239+240の分析結果（土壌）

No. 地点番号
 上段 プルトニウム238の分析結果 (Bq/m²)
 下段 プルトニウム239+240の分析結果 (Bq/m²)



Bq/m² : ベクレル/平方メートル 平成24年4月6日 原子力災害現地対策本部（放射線班）、福島県災害対策本部（原子力班）

「福島県における土壌の放射線モニタリング調査計画」に基づき、2011（平成23）年8月10日～10月13日に採取された県内の土壌について、プルトニウム238、239+240の分析が行われたところ、調査地点（48地点）については、放射性物質が全て事故発生前の国内の調査結果の範囲内であったこと、プルトニウム238とプルトニウム239+240の比率が事故発生前の全国平均（0.0261）とほぼ同程度の比率であったことから、事故由来のものではないと考えられています。

なお、福島第一原子力発電所周辺の参考調査地点（7地点）のうち、1地点（大熊町大沢）については、プルトニウム238とプルトニウム239+240の比率が0.214と全国平均（0.0261）より一桁高い比率となっていることから、福島第一原発事故の影響の可能性が考えられます。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

本情報は2012年の情報です。

関連Q&A

- ・1章 QA16 福島原発周辺で検出されたプルトニウムの量は、事故前に検出されたプルトニウムの量に比べてどうだったのでしょうか
- ・1章 QA17 プルトニウム241が放出されることは予測されていなかったのでしょうか
- ・1章 QA18 平成24年3月8日に発表された論文において検出されたプルトニウム241の結果から、どれくらい被ばくすると考えられますか
- ・1章 QA32 東京電力福島第一原子力発電所の敷地内で微量のプルトニウムが検出されたようですが、健康への影響はありませんか
- ・1章 QA48 プルトニウム241の食品への移行が気になります
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか
- ・その他：1章 QA13、3章 QA1～4、3章 QA14～16